

縦の会

読みやすい台本を求めて

└縦書き台本作成システム

作成 萬野 展

登場人物

ばんのひろし 作者。45歳。

マリー アシスタント。17歳。

【注記】TeXによる縦書き台本作成システムのサンプルとして作成した。

縦のものを横にするのは、
赤子でもできる。
だがしかし、
いったん横になったものを
縦にするのは、
とてもたいへんだ。

ACT.1 前置き

はんの、マリー登場。

はんの マタイ伝は嘘だが、まあとりあえず、だ。

マリー あい。

はんの 一本台本を書くときには、それとわかる名前をつけて専用フォルダを作っておくことを、とりあえずお奨めする。

マリー あい。

はんの この原稿の場合で言えば、sample という名前のフォルダを作って、その中に sample - input.txt (すなわちこのファイル) を置くわけだ。

マリー 置くわけだ。

はんの で、次に、名前はなんでもいいんだが、このファイルを Perl と LaTeX に処理させるためのバッチファイルと同じフォルダに作る。いちいちコマンドプロンプト開いてコマンド打つのは鬱陶しいからな。

マリー うつとうつい。

はんの 今さりげなくルビ振りのサンプルも混ぜたりしたわけだが、それはともかく、バッチの自身はこんな感じだ。

```
《sample.bat の中身》
perl c:\usr\bin\txt2tex.pl sample
latex sample
dvipdfmx -l sample.dvi
```

マリー …。

はんの 不安そうな顔をするな。…ちょっと田マークなんかを出すために例外的な工夫がしてあるが、普通の台本でこんなト書きは出てこないから気にしないでいい。

マリー …。

はんの ちなみに右の例は、txt2tex.pl が c:\usr\bin\ に置いてある私の環境での話だから、そこそこよろしく。面倒なら txt2tex.pl も同じフォルダに入れてしまえば、バッチの方は、

```
《sample.bat の中身》
perl txt2tex.pl sample
latex sample
dvipdfmx -l sample.dvi
```

はんの …でよい。短くなっただろ。

マリー …。

はんの ニコニコするな。で、この sample.bat をクリックすると、コマンドプロンプトのウィンドウが勝手に開いてスラッシュと処理が進み、問題がなければ、同じフォルダにバラバラと七つほど、どれも「sample」という文字で始まるファイルができる。

マリー さりげなく傍点のサンプルを混ぜたのだな。

はんの いちいち指摘しなくてよろしい。処理中になにか問題が起きたら、ていうかたぶん起きるんだが…プロンプトはそこで止まるので、「x」を打てば強制終了できる。

マリー その問題が何か、そんなことは今私にわかるわけがないので、とりあえずうまくいったと仮定して話を進めよう。

ばんの …オイ、そこ俺のセリフだろう。

マリー あ。

ばんの まあ、いい。そういうことだ。で、そのファイルの中で、samplel.dviを、dvipoutで開くと、版組の結果が見られて、印刷したければ印刷できる。同じくsamplel.pdfが出来ているはずだから、pdfが必要ならそっちを使う。pdf閲覧ソフトにもいろいろあるが、まあdvipoutのほうが軽いので、通常はそっちだけ使えばいいと思う。その場合は、バッチファイルの最後の行は不要だ。

マリー ルビ^るルビ^るルビ^る。

ばんの 退屈するな！ なにを遊んでいる。

マリー 失敬^{しうげい}し^しつ^つけい^{けい}。

ばんの ……。ちなみに、dvipoutでdviを開きっぱなしにしても、バッチを走らせてdviが書き換われば、勝手に読み直してくれる。これは地味なようで便利だ。pdfのほうは、ファイルを開いているとバッチのほうが止まってしまっかな。

マリー 止まってしまっのだった

ばんの 遊ぶなというのに。ではまあ、前置きはそんなところで。

マリー お疲れさまでした!!

ばんの ……。

暗転

ACT.2 書式の基本

大前提。

本文は「セリフ」と「ト書き」からなり、これらはすべて「行単位」に解釈される。

ばんの というところで、左下の、シーン毎のページ数が1にリセットされていることをさりげなく確認したら、書式の基本について確認していこう。

マリィ ……………。

ばんの さりげなく、だ。親の仇みたいに睨まないように。

マリィ ……人違いだった。

基本1。

全角スペースが途中に出てくる行はセリフ、それ以外の文章はト書きと解釈される。

ばんの これが単純にして最大の基本だ。全角スペースがあれば、その前が人物名、後ろがセリフ。なければ全部ト書き。

マリィ わかりやすい。

ばんの 全角スペースが二個以上あったらどうなるか。はい。

マリィ こんなふうに、なるの です。

ばんの ここぞとばかりに入れたな……。つまりは、最初の一個だけがセパレータとして意味がある。それ以降はいくつ出てこようがおかまいなしということだ。

マリィ あ い。

ばんの ちなみに半角スペースはどうなるか。ほれ。

マリィ ほれ。あれ？

ばんの このように、半角スペースはセパレータにならないので、当然ト書き扱いになる。またセリフ中に半角スペースが出てきたらどうか。

マリィ いきます。あいうえお。あいうえお。

ばんの このように、そのまま出る。これを利用すれば、ト書き中で、

ト書きの途中でスペースをあげる。

ばんの …のように空白を作ることができる。このスペースが全角だと当然…

ト書きの 途中で スペースを あける。

マリィ セリフになってしまふのです。

ばんの そういうこと。ただし半角スペースはTeXでは、いくつ連打しても、ひとつと見なされる。ト書き中で（セリフ中なら全角連打が効く）それ以上の長さの空白を作りたいときは、たぶん別のTeXコマンドを直打ちするしかないのだが、今まで台本を書いてきてそんな必要に迫られたことは一度もないので、この件に関しては以後禁句とする。

マリィ ラ ジ ヤ ー。

ばんの あてつけのように連打しなくてよろしい。では次。

基本2。

改行について。

ばんの 改行については、四つのケースがある。(1)セリフ中の改行。(2)ト書き中の改行。(3)ト書きとト書きの間の改行。(4)セリフとセリフの間の改行。

マリー むづ。

ばんの 実例で示していこう。まず(1)セリフ中で実際に改行すると、

このように、改行以降はト書きになってしまふ。
これは基本1からすれば当然のことである。

ばんの どうしてもひとつのセリフの途中で改行が欲しいときは、
このようにする。

マリー (拍手)

ばんの 拍手はいらない。これは

このように繋げて書いても、

このように「ト書き」+改行」としても同じ結果となる。

マリー …。

ばんの 拍手を寸止めするのは暑苦しいからやめたまえ。ではト書き中の改行はどうか。

ト書き1。

ト書き2。

ばんの これは普通にト書きを二つ並べた状態。

ト書き1。

ト書き2。

ばんの これは「ト書き」で連結した状態。

マリー おなじだ。

ばんの 次に「ト書き」+改行。

ト書き1。

ト書き2。

マリー 同じなのです。

ばんの そう。ト書きが改行で連続している場合、ひとつの同じト書きブロックとして扱っているのです。そこで(3)ト書きとト書きの間の改行、の話になるわけだが、ト書きとト書きの間にもうひとつ空の改行をひとつ挟むとどうなるか。

ト書き1。

ト書き2。

マリー なるほど。

ばんの これで、ト書きブロックはふたつになったということです。このト書き間の空行は、一行以上あっても一行分に集約されます。このあたりのト書きの仕様に關しては、少し見直しが必要かなとは思っているんだが…。

マリー ふーん。

ばんの まあべつに、実際問題困ってないし、なんとなく少しだけ気持ち悪いだけでうーん、でもま、いいかな……そんで、なんだっけか？

マリー (4)が、のこっている。

ばんの ああそうか。で、最後に(4)セリフとセリフの間の改行。これも、やってみればわかるけど、やってみて。

マリー はい。…あれ、すごく長い間をとったのに。

ばんの そういうことです。すなわちセリフとセリフの間、ト書きとト書きの間は、どれだけ空改行を打っても反映されません。なぜならば、

マリー そんな空白は、意味が、わからない。

ばんの そう。間をとる指示をしたいなら、

間。

ばんの とすればいいのです。このことは最初の「大前提」から考えれば当然のことです。はい、大前提は？

マリー ふーむ。

ばんの 黙読しないで声を出せ。

マリー おお。「大前提。本文は「セリフ」と「ト書き」からなり、これらはすべて「行単位」に解釈される。」

ばんの 本文を構成する要素は「セリフ」と「ト書き」のみであって、空行というのはそのどちらでもありません。したがって、存在しないものと見なされるわけです。

マリー なるほど。

ばんの ただ、書いていて、ここにあとからセリフを書き足したいけど、今は空白にしておきたい、というような場合はあるでしょう。そういう時は、たとえば

ばんの このようにスペースだけ打っておくとか。あるいは

*

ばんの のように、なにか記号をポチッと打っておけばよいと思います。

マリー わかった。

ばんの 以上で本当に基本的な部分は終わりです。

マリー おつかれさまでしたッ!!!

ばんの はいはい、次それ、やりますね。

暗転

ACT.3 特殊記号類

キーワード中、もしくは本文中に使用できる特殊記号について。

マリー ルビについて。ルビは、「<」と「>」ではさむ。真ん中を「」でくぎって、前がルビられるほう、後ろがルビるほう。実例^{じつれい}。

ばんの うん。

マリー 太字。「」ではさむ。

ばんの ほしい、実例。太字っていうか、実際はゴチック体ですが。

マリー 次、傍点。「」ではさむ。

ばんの 実例。

マリー 連数字。「^」ではさむ。

ばんの 実例!?

マリー 以上。ではさようなら。

ばんの ……えらい早いなあ。しかしまあそういうことだ。これらの記号は単独で出てくる限りそのまま出力される。同じ行(式)で連結している場合も含む(にペアで出てきた場合にのみ、変換対象になる)。

マリー あと、組み合わせによっては、ダメなばあいもある。

ばんの そう。たとえばルビと太字は、

「ゴチック
太字」

ばんの こんなふうにくまなくくけど、組み合わせかたによっては意図したように出ないこともあると思う。たぶん。

マリー 無責任。

ばんの あらゆる組み合わせをテストしたわけじゃないからね。だいたいこんなの、読めそうもない人名にルビ振る以外、あんまり使わないから…

マリー それも、そうだ。

ばんの まあ、まとめておきましょう。

【現行使用特殊記号】

「<」「>」「」…ルビ用。

「|」…ゴチック強調。

「」…傍点用。

「^」…連数字用。

まとめると、振り仮名^{ルビ}、太字による強調、傍点による強調、連字^{連字}の4種類が使える。

ばんの 最後に、コメント行について。はいどうぞ。

ばんの ……ということでした。

マリー だな。

ばんの え、以上、主に台本ソースファイルの書き方について、サンプルを兼ねて、説明してみました。それではみなさん。

マリー さようなら!

幕